

付録2 文献管理ソフト

最近は学術情報のデータベース化が進み、特定の主題に関する文献を一度に、そして網羅的に検索することができるようになりました。こうした検索結果をそのまま自分の文献リストとして保存・編集し、論文の執筆時に再利用できるようにしたものが文献管理ソフトです。これらを有効に利用することで、効率的な研究活動をすることができるでしょう。

(1) 文献管理ソフトでできること

文献管理ソフトと呼ばれるものは通常、以下のような機能を備えています。

- データベースの検索結果から、文献リストを一括作成し保存
- 作成した文献リストの編集・検索
- 作成した文献リストから、論文執筆時に参考文献リストを自動作成

文献管理ソフトには、価格や機能によっていくつもの製品があります。利用環境や目的に合わせて選んでください。多くの場合トライアル版が用意されていますので、実際に使ってみて決めるのがよいでしょう。

入手	製品名	利用環境	提供元
市販	EndNote	Win,Mac	(株)ユサコ
	Reference Manager	Win	(株)デジタルデータマネージメント
	GetARef	Win	(株)バーシティーウェーブ
無料	Ref for Windows	Win	http://hp.vector.co.jp/authors/V/A011272/
	Bunso	Win	http://hp.vector.co.jp/authors/V/A005818/
	refEDIT	Mac	http://www.vector.co.jp/soft/mac/edu/se105180.html

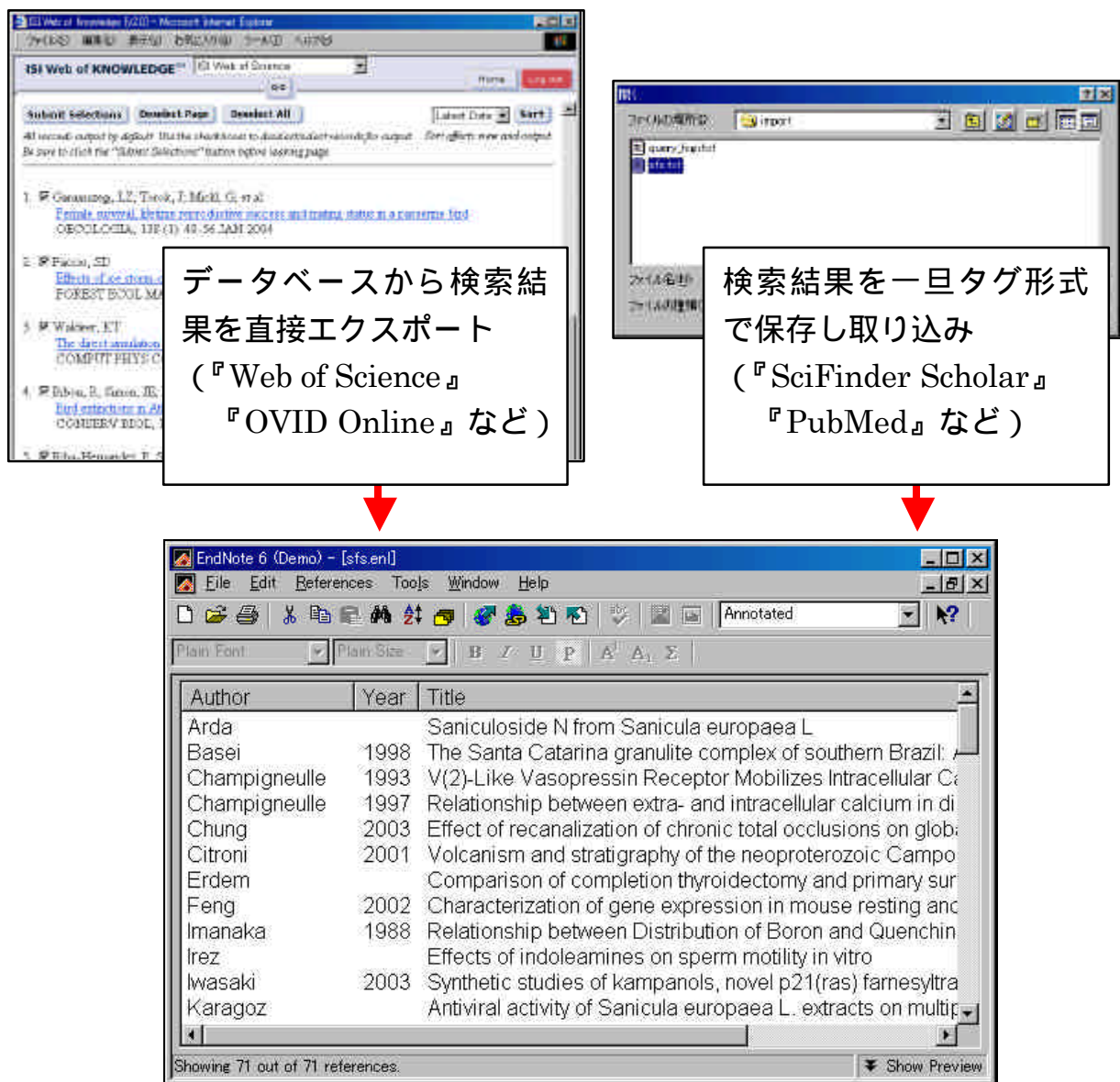
図表 付録2-1 文献管理ソフトの種類

(2) 文献管理ソフトの例

ここでは『EndNote』を例に、文献管理ソフトの機能を簡単に紹介します。

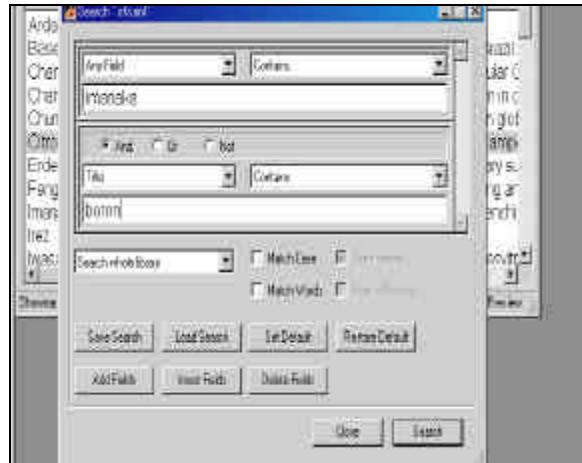
データベースの検索結果からリストの自動作成

文献管理ソフトへのエクスポート機能をもっているデータベースからは、検索結果を直接文献リストへ取り込むことができます。エクスポート機能のないデータベースからも、タグ形式で保存したものを取り込むことができます。



図表 付録 2-2 文献リスト一覧画面

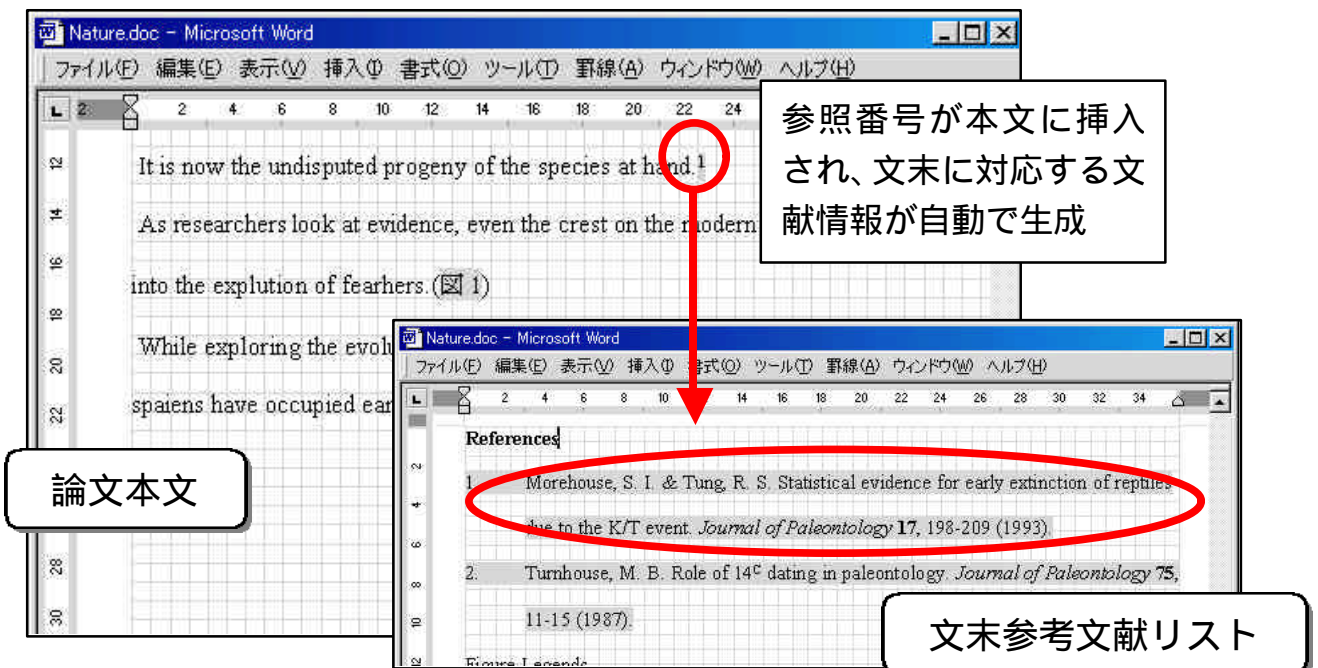
作成した文献リストの編集・並べ替え・検索
 文献リストへの追加・削除、リスト間のデータのやり取りができます。またリスト
 中の文献の検索もできます。



図表 付録 2-3 文献リストの検索画面

参考文献の自動作成など

インストール時、Microsoft Word のツールメニューに『EndNote』コマンドが追加されます。Microsoft Word での論文作成時は、ここから参考文献の挿入などが行えます。主要誌の参考文献の表記もテンプレートとして用意されています。



図表 付録 2-4 論文中での参考文献の作成